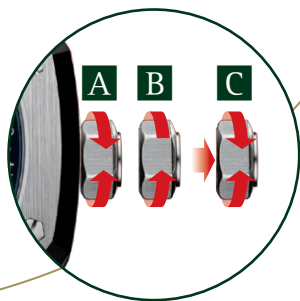


INSTRUCTIONS FOR USE  
MODE D'EMPLOI

# PERPETUAL CALENDAR

CALIBRE 5134  
SELFWINDING

**AUDEMARS PIGUET**  
*Le Brassus*



# 日本語

使用説明書の目次はインタラクティブになっています。  
読みたい項目のタイトルもしくはサブタイトルをクリックしてください。

目次に戻りたい場合は縦に配された白いインデックス  
「日本語」をクリックしてください。

## 保証とお手入れ

時計の保証、および推奨するお手入れ方法に関する全ての詳細な情報は、証明書および付属の保証書に記されています。



## 目次

### イントロダクション 160 ページ

- オーデマ ピゲのマニュファクチュール

### 時計について 164 ページ

- 自動巻きキャリバー
- 永久カレンダー

### この時計について 170 ページ

- ムーブメント
- ムーブメントの仕様
- 特徴

### 機能の使い方 172 ページ

- 時計の表示と機能
- 事前の注意
- 時刻合わせ
- ムーブメントの巻き上げ
- カレンダーの修正
- 修正ツール
- 永久カレンダーの表示合わせ
- 時計が止まったときの修正 (3日以内の場合)
- 時計が止まったときの修正 (4日以上の場合)
- ワインディング ボックス



## イントロダクション オーデマ ピゲの マニュファクチュール

### 時計製造技術の発祥の地、ジュウ渓谷

ジュネーブの約50 km北、スイス・ジュラ山脈の中に、今日までその自然の魅力を保っている地域、ジュウ渓谷があります。この山岳地帯は気候が厳しく、土壌も痩せていたため、この地に根を下ろした人々は18世紀の中頃に、農業以外の収入の道を探すことを考えました。コンビエと呼ばれたこの土地の人々は、手先の器用さと新しいものを創造する力、また不屈の精神を活かして、時計製造業へと発展していくことになりました。

こうして作られたムーブメントは質が高く、ジュネーブの企業に大変な好評をもって迎えられ、完全な時計に仕上げられたのでした。

1740年以降、ジュウ渓谷のみで時計製造業は自立した産業として発展することができるようになりました。このとき以来、この地域は、ある年代記の1881年の項に記されているように、「急速に発展を遂げた桃源郷」へと変貌したのです。





### 偉大なる冒険に挑んだ2つの名前

1875年、複雑時計の製作に情熱を傾ける2人の若き天才時計職人、ジュール＝ルイ・オーデマとエドワール＝オーギュスト・ピゲが、高級時計産業が盛んな地、ジュウ渓谷で2つの才能を集結させ、複雑機構を搭載した時計を開発・製作しようと決意しました。2人の決意、想像力、そして規律の正しさは、ただちに成功を収めました。1885年ごろ2人はジュネーブに支店を構え、1889年のパリ万国博覧会の際には様々な超複雑懐中時計を発表して、新たな取り引き関係を広げます。オーデマ ピゲのマニュファクチュールは年々と発展を続け、例えば1892年には初めてのミニッツリピーター機能付きの腕時計、1921年にはそれまで実現されたことのない5分単位ミニッツリピーター機能を備えた最小ムーブメントを製作するなどして、高級時計産業の歴史を彩ってきました。

1918年からは、創設者の息子たちが事業を受け継いでいます。男性用、女性用の腕時計の製作に卓越した技術を発揮し、極薄の洗練された新しいムーブメントを作り出しています。1929年のウォ

ール・ストリート株価大暴落によって厳しい経営を強いられるものの、粘り強さと信念を持ち続けることで、まずスケルトンと呼ばれる時計の製作を再び軌道に乗せ、その後クロノグラフ付き時計の製造に乗り出しました。しかし、この新しい勢いも、第二次世界大戦によって突然中断を余儀なくされてしまいます。戦後は再編成をし、マニュファクチュールは、「伝統と革新」を追求しつつ、ハイエンドウォッチの製作に注力。そして特に、クリエイティブの斬新さという方針により、戦略は実を結んだのです。



国際的な成功を収めたオーデマ ピゲ は、1972年にステンレススティールを用いた世界初のラグジュアリースポーツウォッチとして発表され、発売と同時に大きな成功を収めたロイヤル オークの製作をはじめ、1986年に発表された世界初の自動巻きの極薄トゥールビヨン腕時計などの製作を続けてきました。以来、マニュファクチュールの創造のひらめきは衰えることなく、比類ないムーブメントを備えた独自の美しさを持つ時計を世に送り続けています。こうして80年代末には複雑時計のテストをコンテンポラリーなものに一新し、1999年には見事なコレクション、トラディション オブ エクセレンスを発表します。オーデマ ピゲはこのシリーズの一環として、オーバルケースデザインのミレネリーのトラディション オブ エクセレンスNo.5を発表しました。この時計には、パワーリザーブ・インジケーター機能、デットビートセコンド機能、垂直に配された永久カレンダーが備わっており、さらには潤滑油を必要とせずに革命的な高い効率で機能する新脱進機システムを搭載することにより、伝統に根付いた大胆なスピリットを実現しながら、未来をも約束しています。

## 時計について 自動巻きキャリバー

自動巻時計では、手首の動きがエネルギーに変換され、時計を動作させています。

動的エネルギーは4個のルビー上で回転する22Kゴールドのセグメント回転錐によりもたらされ、歯車によりパレルのスプリングに伝達される。スプリングが徐々にパレル軸に巻き付くことで、エネルギーが蓄積されます。蓄えられたエネルギーはコンスタントにムーブメントに供給されます。

時計を填めた方の運動量や生活習慣の違いにより、数時間から数日の範囲でパワー・リザーブが上限に達します。

過大な負担を防ぐために、巧妙なシステムによりゼンマイが適切なタイミングで香箱内を空転します。



## 時計について 永久カレンダー

永久カレンダーは過ぎゆく時間を再現したものです。月の大小や閏年を機械的に再現することは、時計技術者にとって大きなチャレンジとなります。

一般的なカレンダー機能では、31日以下の月の終わりに、毎回手動で修正をしなければなりません。より複雑な年次カレンダーでは、一年に一度だけ、あるいは2月にのみ修正が必要となります。

しかし時計作りの技の中でも、最も貴重かつ最も高く評価され、その上最も便利なのは、まぎれもなく閏年を考慮しつつ曜日、日付、月が表示され、しかも手動での修正が不要な永久カレンダー機能です。

永久カレンダーは月による日数の違いやうるう年も考慮して正しい日付を表示しますので、手動修正は2100年2月に必要となるのみです。







ジュウ渓谷の時計製作者たちは19世紀から永久カレンダーを導入し、その改良を続けていますが、ルイ・ベンジャミン・オーデマ（1782年～1833年）もその一人でした。

オーデマ ピゲはその頃から、このコンプリケーションの発展において重要な役割を担っており、1978年には世界一薄い（厚さ3.95ミリ）中央ローターを搭載した自動巻き永久カレンダーを発表し、話題となりました。

今日、傑作といわれる時計は、イノベーションと卓越した技の長い伝統をもとにして作られているのです。

---

### 閏年

4で割り切れる年は閏年（2月が29日までである年）です。

**例：**1916年、1920年、…2008年、2012年、2016年、2020年。

世紀の区切りの年（百年単位、ゼロ二つで終わる年）は閏年とはなりません。ただし400で割り切れる年を除きます。

**例：**1900年と2100年は世紀の区切りの年で、閏年とはなりません。2000年と2400年は世紀の区切りの年で、閏年となります。

閏年は太陽年の実際の長さ（365,242,198日）と通常の暦の一年の長さ（365日）との差を定期的に調整するために設けられたものです。

---

### ムーンフェイス

新月から次の新月までの期間は29日12時間44分2.8秒です。

別表に、様々なムーンフェイスの日付が記してあります。

## 時計の仕様について 基本ムーブメント

キャリバー 5134



ケースバック



ダイヤル側

### ムーブメントの技術仕様

ムーブメントの厚さ: 4.31 ミリ

ムーブメントの直径: 29.00 ミリ

振動数: 2.75 Hz (19,800 振動/時)

石数: 38

最小パワーリザーブ: 40 時間

双方向回転自動巻

変動慣性マスロット使用テンプ

平面スパイラル

可動ヒゲ持ち受け

部品数: 374

### 特徴

エクストラフラット ムーブメント

片持ち式バレル

回転錐は4個のルビー上で回転する外周リングに支えられ、摩耗と消耗を抑える

レーザー加工によるマイクロ構造のムーンフェイズ表示器をアベンチュリン上に設置

ムーンフェーズ天文表示器の修正が必要になるのは125年と317日ごと

部品仕上げのマニュアル

ローターはカスタマイズ可

## 機能の使い方

### 腕時計の表示機能

(図を参照)

- ① 時針
- ② 分針
- ③ 日付表示針
- ④ 曜日表示針
- ⑤ 月表示針
- ⑥ ムーンフェイズ表示
- ⑦ 閏年表示針
- ⑧ 週表示針

#### 修正用ボタン:

- C カレンダー修正装置 (日付、曜日、週、月)
- D ムーンフェイズ修正ボタン
- E うるう年サイクルおよび月の修正装置
- F 曜日修正ボタン
- G 週の修正装置

この時計は3つのポジションを有するリューズを備えています。

- A ねじ込まれた位置のリューズ
- B 位置 巻き上げ
- C 位置 時間合わせ

<注意>まずリューズを緩めてから作業を行い、作業後は防水性を保証するために再び(A)位置までしっかりと締めてください。



## 機能の使い方

### 事前の注意

下記の操作時には必ずリューズを緩めて所定の位置に引き出すことが必要です。緩めるとリューズは自動的に **B** 位置にセットされます。

調整を行った後は、防水性を確保するためリューズを **A** の位置までよくねじ込むことが必要です。

### 時刻合わせ

リューズをポジション **C** に引き出します。時刻合わせをする時はリューズを前後に回すことができます。時間調整時には設定希望時刻より5分進めてから希望時刻に戻すことをお勧めします。歯車のかみあいが正確になり精度がより高くなります。

**注意:** 日付を調整する時に正午と零時を間違えないようにご注意ください。

### ムーブメントの巻き上げ

時計が停止した場合は、リューズを (**B** 位置で) 最低30回回転させることにより、巻き上げることができます。その後は手首の動きにより、自動巻機構が時計の正常な作動を継続させます。

**注意:** 時計を腕に着けていない時、自動巻きの巻き上げシステムは機能しません。最初の巻き上げの量によりパワーリザーブの残っている40時間以内に停止します。

## カレンダーの修正

14時から3時の間はカレンダーの修正をしないでください。この時間以外は、メカニズムに損傷が起こる危険はありません。

24時以降に針を戻す必要がある場合、日付と曜日が1日進みます。この日付の差はすぐにもとに戻るので修正をする必要はありません。

**注意:** 月表示は23時30分から23時45分の間に変わります。月表示の修正を行う際は、日付表示の針を必ず28日から31日以外に位置させてください。

### 修正ツール

修正には添付のツール以外は使わないでください。



## 永久カレンダーの表示合わせ

### 事前の注意

修正ボタンを不適切に使用すると、表示が不正確になる恐れがあります。これらの修正装置は、必要な場合以外に使用しないでください。また使用する場合は、以下の指示に正確に従ってください。

## 機能の使い方

### 時計が止まったときの修正 (3日以内の場合)

リュウズを **C** の位置にし、正確な日付が得られるまで、針を進行方向に回します。

### 時計が止まったときの修正 (4日以上の場合)

#### 注意

修正ボタンを使う前に、リュウズを **C** の位置に引き出し、時計回りに表示針を1日進ませます。その後、針を午前12時の位置に合わせます。この状態では、あらゆるメカニズムが休止状態になるので、修正ボタンを押しても暦が損傷するおそれはありません。

修正装置は付属の修正ツールを使って修正が行われるまで押し、注意深く作動させてください。

#### 修正の仕方

次の順序で調節します(図参照):

1. カレンダーは**10時**の位置にある修正ボタン (**C**)で行います。日付、曜日、週、月の修正は同時に行われます。
2. ムーンフェイスは**7時30分**位置のボタン **D** で修正します。

ムーンフェイスの調整方法は次の通りです。

- a) 満月のディスク(太陰暦の15日目に相当)を表示させます。

- b) 最後の満月の日の設定:最後の満月の日と現在の日の間にあたる日ごとに、修正装置 **D** を2回作動させてください。

3. **2時 (E)**の位置の修正装置により、うるう年サイクルの年月を修正。
4. **8時30分 (F)**の位置の修正装置により曜日の修正。
5. **4時 (G)**の位置の修正装置により週の修正。
6. 時計の時間を合わせます。  
現在時刻が時計の指している時間(12時)よりも前である場合、針を反時計回りに回して時刻を合わせます。

現在の時間が時計が表示する時間より後である場合(12時以降)、時計回りに針を回してください。

### ワインディング ボックス

確実に継続的に巻き上げるために、お買い上げのウォッチには、電動式回転ケースが付いており、一定したムーブメントの巻き上げが可能です。回転ケースの使用については、回転ケースに添付されている専用の使用説明書をご覧ください。

